

令和7年度町政懇談会議事録（あゆみ幼稚園）

- 1 日 時 令和7年10月8日（水）10：00～11：00
- 2 場 所
- 3 出席者（役場） 隈崎町長、久保教育長、中村企画観光課長、平馬保健福祉課長、作井
- 4 出席者 保護者（13人）

5 懇談会要旨

町長や役場職員と幼稚園保護者による懇談会の記録。町長は「子孫が住んで良かったと思える元気な島」を目指し、人口減少対策や子育て支援に注力する姿勢を示す。保護者からは、幼稚園の存続不安や預かり保育の拡充、雨天時や夏場に子供が遊べる屋内施設の不足など、切実な課題が提起。また、学校施設の老朽化や少人数学級の要望についても具体的な議論が交わされた。行政側は財政面や安全管理の制約を説明しつつ、現場のニーズを反映した予算編成や環境整備を検討することを約束。町民と行政が対話を通じて、島の未来と育児環境の改善を模索された。

町のビジョンと現状

- * 町長の理念：町長は「子や孫の世代が住んで良かったと思える元気な島」を掲げる。
- * 人口減少の深刻さ：昭和60年頃には年間13余名いた出生数が、令和5年には30名程度まで減少しており若い世代が子育てしやすい環境作りが急務であると考えている。
- * 元気な島とは：単に賑やかなだけでなく、外からも「住みたい」と思われ、都会にない環境と支援策が整っている島を目指す。

教育・観光・福祉の取り組み

- * 教育委員会：「きらりと輝く人づくり」をテーマに、命を守る教育、生きる力、知恵を育む教育に取り組む。
- * 企画観光課：雨天でも遊べる場所が欲しいという要望に応え、「KIKAI BASE」にキッズスペースを設置。将来的には「総合運動公園」のような大きな構想もあるが、予算の関係で具体的な時期は未定。
- * 保健福祉課：離島地域の子供通院費支援や、来年度から開始予定の「こども誰でも通園制度（月10時間上限）」などの準備を進めている。

幼稚園の存続と預かり保育への不安

- * 保護者の意見：共働きが増える中、夏休みや土曜も預けられる保育所のメリットが大きい一方、幼稚園の教育的価値も感じる。同時に園児減少による幼稚園の存続に不安を感じる。
- * 預かり保育の要望：幼稚園の降園時間を延ばしてほしい。あるいは下の子の出産前後（産後8週以降）も上の子を預けられるようにしてほしい。
- * 町長の回答：幼稚園と保育所の併存については今後検討が必要と感じる。それぞれの制度に縛られすぎず、園と相談しながら柔軟に対応したい。

職員からの提言と組織のあり方

- * 現場の声:町長が福祉や子育てに興味がないように思える。特に歯科保健などの健康基盤の重要性・現場の意見を吸い上げる仕組み作りを。
- * 町長の回答:自身の役割は予算付けと議会对応であり、専門的なことは職員に任せている。電子決裁の導入で対面機会が減ったことを認めつつ、組織のルールを守りながらも意見を聞く場を設けたい。

公園と遊具の整備

- * 遊具の不足:島内の公園に鉄棒や登り棒がなく、子供の体力が低下を懸念。また、園庭を放課後に開放してほしい。
- * 回答:全国的な事故の判例や安全基準の厳格化により、古い遊具を撤去せざるを得ない。管理責任の問題から、各集落に遊具を増やすよりも、一箇所に充実した施設を作る方向（総合運動公園構想）はある。

学校教育とクラス編成

- * 小人数学級の要望:小学校低学年の間は、一人ひとりに目が届くよう、25人以下のクラス編成にしてほしい。
- * 町の対応:国の標準は35人ですが、本町では人数がギリギリのライン(35~40人前後)になることが多く、現在は非常勤講師を2名配置して指導体制を強化。

*この懇談会では、限られた財源と厳しい少子化の中で、いかに住民のニーズに応じていくかという課題を残しつつ、今後も調整を続けていくことを確認して終了。